

日本語の『－ている』と中国語の『－着』

との対照研究¹⁾

犬 塚 優 司

1. 序論

1. 1. 目的

日本語と中国語のアスペクトを対照する上で、日本語の「－ている」と中国語の「－着」は、非常に類似した現象としてとらえることができる。統語的には、どちらも動詞の後ろに付加される成分であり、意味的にも、類似している。

吉川（1976）は、日本語の「－ている」の意味として、次の五つを上げている。

- 1) 動作・作用の継続
- 2) 動作・作用の結果の状態
- 3) 単なる状態
- 4) 経験
- 5) くりかえし

また、吉川（1976）は1)と2)を基本的な意味と考えている。「－ている」が、どの意味になるかは、その文脈、とりわけ前に置かれる動詞に依存している。いわゆる継続動詞の場合は、1)の意味となり、いわゆる瞬間動詞の場合は、2)の意味になる。（金田一（1976））

刘他（1983）は、中国語の「着」の意味を、「主に動作または状態の持続を表」すものと考え、その意味として具体的に次の五つを上げている。²⁾

- 1) 動作がずっと持続していることを表す。
- 2) 動作が行われた後、あるものをある状態のままにしておくことを表す。
- 3) ある持続的動作を表す（但し、その動作は実際上は一種の状態である）
- 4) ある非状態動詞の後に”着”がつき、やはり一種の状態を表す。
- 5) ある形容詞の後に”着”を加えると、状態の持続を表す。

「－着」がどの意味で用いられるかは、やはり、文脈、とりわけ前に置かれる動詞によって決まる。基本的には、動詞が語彙的に[＋継続]という意味特徴を持つものであれば、

1)の意味となり、[＋（結果性の）状態]という意味特徴を持つものであれば、2)の意味となると考えられている。（木村（1981））³⁾

両者を比べてみると、基本的な部分で一致していることがわかる。

本稿は、日本語の「－ている」と中国語の「－着」の用法を対照し、両者の類似点と相違点を通して、中国語の「－着」の文法的特性を明らかにすることを目的とする。

1. 2. 方法

テキストの日本語の中から、「－ている」とその変化形を含む文（または文章）を見つけ出し、それと対応する中国語訳の文（または文の一部あるいは文章）を抜き出し、両者を対照する。⁴⁾

1. 3. テキスト

テキストには、刘文柱、于荣胜編選（1987）『大学日语文选』（上）（北京大学出版社）より、pp. 1-177を用いる。この本は、中国の大学における日本語専攻の学生の教科書として編集されたもので、様々な種類の日本語の文章が集められている。この本は、日本語本文、その注釈、作者と作品の簡単な紹介および参考訳文からなっている。

2. 本論

2. 1. 概観

テキスト中に現れた「－ている」およびその変化形⁵⁾は、332例である。これらは、次の表のように、訳出されていた。

I 「－ている」がなんらかの形式で訳出されているもの

- | | |
|-------------------------|------------|
| ① 「－着」を用いたもの | 41例（12.3%） |
| ② 「正－」、「在－」、「正在－」を用いたもの | 16例（4.8%） |
| ③ 「－了」を用いたもの | 55例（16.6%） |
| ④ その他の形式を用いたもの | 3例（0.9%） |

II 「－ている」が訳出されていないもの

- | | |
|---------------------|-------------|
| ① 動詞が訳されているもの | 156例（47.0%） |
| ② 動詞が他の表現に変えられているもの | 54例（16.3%） |
| ③ 動詞が訳されていないもの | 7例（2.1%） |

この表から、「－ている」が「－着」に訳される例が約12%と少ないことがわかる。一方、約半数が、動詞のみ訳出されている。前に述べたように、日本語の「－ている」と中国語の「－着」は、文法的に類似している。それにもかかわらず、「－ている」が「－着」に訳される例が、このように少なく、訳されない例が多いのは、なぜだろう。訳者の好みによると考えるには、その類似性から考えて、「－ている」が「－着」と訳されてい

る例が、少な過ぎるようである。

なお、I-②の「正一」等は、「ちょうど」という意味の副詞で、動作の進行を表す。たとえば、次のような例がある。

(1 a) 今の日本は、すべての若者を画一化してしまおうとする体制をつくっています。
(p. 38)

(1 b) 在今天的日本，正在形成一种企图使所有青年都一致化的模式。
これもアスペクト的な表現であるが、本稿では、考察しない。

また、I-③の「一了」は、完了を表すアスペクト接辞である。たとえば、

(2 a) ……、軒の深い黒壁の古風なもとの建物は小規模な洋館づくりに変わって
いました。(p. 2)

(2 b) ……，但房子翻新了，原来古式的深檐黑壁变成了西式的小房间。
のような例がある。動作の結果生じた状態を表す例を訳す場合について用いられており、興味深いが、本稿では、扱わない。

I-④のその他の形式を用いた例は、次のようなものである。

(3 a) おりから夕がたみかけた社務所の前の広庭を、水色のはかまをはいた白衣の禰
宜さんが、竹ぼうきを使ってはいていました。(p. 7)

(3 b) 就在这时，穿着浅蓝色和式裤裙和白上衣的祢宜开始挥动竹扫帚，进行事务所前
面大院每天黄昏前的清扫了。

(4 a) 太平洋の真ん中を走っているときも、時々自己の死というものに対して、もの
すごい恐怖感を持つことがありました。(p. 37)

(4 b) 在驶向太平洋对岸的中途，我多次面对死亡产生过强烈的恐惧感。

(3 b) は、「进行」が、動詞性の目的語と共起したものであり、(4 b) は、「在・
・的中途」という形式である。⁶⁾

II-②の「ーている」が訳出されず、動詞が他の表現に変えられているものとしては、
次のようなものがある。

(5 a) ただ私の脳裏に残っているものよりはるかにすべてが小規模に、原型の何分
の一かのひな型のように思われましたが、……。 (p. 7)

(5 b) 只是觉得比我印象中的小了很多，好象成了原物的几分之一模型。

(6 a) 以前、父が事務所に使っていた所で、すぐ後ろには、ウェスター教会がある。
(p. 51)

(6 b) 以前父亲就在这里办公，紧接着后面是维斯太教会。

Ⅱ-③の「ーている」も動詞も訳されていない例としては、次のようなものがある。

(7a) かえってヘクトーのぼうが、ほえながらしっぽをまたの間にはさんで物置き
のほうへ退却するのが例になっていた。(p. 79)

(7b) 相反, 这时赫克丹却叫着夹着尾巴退回仓库里。

もちろん、Ⅰ-④、Ⅱ-②、Ⅱ-③は、本稿の考察の対象にしない。したがって、Ⅰ-①およびⅡ-①が、本稿の考察の対象である。

2. 2. 「ーている」が「ー着」を用いて訳出されているもの

「ーている」が「ー着」を用いて訳出されている例をみると、「一的」を伴って、名詞句を限定する例が少ないことに気が付く。41例中5例である。日本語の文が連体修飾の形式をとっている例が、15例あるうちでも、4例しかない。中国語に翻訳する際に、意図的に、変えられたものと考えられる。(8b)は、変えられたものである。

(8a) しかしいけがきの根にじっとうずくまっているかれは、いくら呼んでも少しも私の情けに応じなかった。(p. 79)

(8b) ……，然而赫克丹在篱下蹲着一动不动，尽管我怎么叫它都没有一点反应。

(9b)、(10b)は、名詞句を限定している例である。(10b)は、名詞句を限定しているものの中で、動作の持続を表している動詞に用いられている唯一の例である。ただし、日本語の文(10a)は、「……ようとしている」という将動相の表現である。

(9a) かつては浅瀬にはどこでもアマモが生い茂っていたものだが、燧灘東部から東にかけては、今ではほとんど見るができない。(p. 91)

(9b) 过去浅滩到处都生长着茂密的甘藷，现在自燧滩东都开始基本看不到这种水草了。

(10a) あき子は、三年生の為雄が今しも棒で広げようとしている一枚の書き初めを、自分の持っている棒でうばい返そうとしていた。(p. 108)

(10b) 此时，明子正用自己手里的棍儿往回夺三年级同学为雄用糖棍儿挑着的一张新年试笔。”

その他の例は、結果の状態、あるいは、持続的な動作を表すものが多い。

(11a) テントの横には、輪かんじきほどの大きさの、爪のぼうが広く、かかとのぼうが小さい、白熊の足跡が点々とついていた。(p. 150)

(11b) 帐篷侧面留着白熊的爪印儿，一个眼儿一个眼儿的大小象圆型防滑套鞋，爪子部位宽，后跟儿部位窄。

(12a) 包んであるポリ袋のカサカサいう音と、かじっている音がする。(p. 148)

(12b) ……，咔嚓…咔嚓…，塑料包装袋的声音，叭叭…叭叭…它继续啃着狗食团

子。⁸⁾

(12b) については、動作の反復とも考えられるが、動作の持続と考えられる。動作の持続を表す例は、(10b)とこの例の他に15例ある。しかし、この2例以外は、(13b)のように、持続的な動作を表すものである。

(13a) …、手を胸の上で組み合わせたなり黙って天井を見つめていた。(p. 80)

(13b) 我两手交叉放在胸前默默地瞧着天井板。

以上見てきてわかることは、純粹な意味での動作の持続を表す例が、きわめて少ないことである。これは、動作の継続を表す「-正、-在、-正在」の形式が、別に存在するからであろう。

2. 3. 動詞だけが訳されて、「-ている」は訳されていない例

なぜ「-ている」が「-着」と訳されていないかは、一つには、「-着」の特性から、もう一つは、「-ている」の特性から説明できる。

第一に、刘他(1983)によれば、「動詞は”着”を用いると、その後ろには目的語しかとせず、その他のアスペクト助詞や補語をとることができない」。⁹⁾これを逆に考えると、他のアスペクト助詞あるいは補語を必要とする表現では、「-着」を用いることができないことになる。156例中にそのような例は、61例存在する。たとえば、

(14a) 今朝、わたしたちに野菜を売ってくれる八百屋さんが、ユダヤ人を二人家にかくまっていたというので逮捕されました。(p. 52)

(14b) 今天早晨常卖给我们菜的菜店老板，由于把两个犹太人藏在自己家里而被捕。

(15a) 年長のサルがボスザルになって、厳しく群れを支配している。(p. 67)

(15b) 年长的猴子成了猴王，对猴群统治得很严。

(16a) と思うと、白熊は足元のほうに回り、また鼻息荒くテントを揺さぶっている。

(16b) …、可这时白熊转到我的脚下，喘着粗气又摇起帐篷来。

などである。

他のアスペクト助詞や補語を必要とする表現では、「-着」を用いることができないという点は、「-着」の特質を考える上で、非常に重要である。それは、「動詞の表す動作(あるいは動作の一部)の結果、なんらかの状態が生じ、それが、その動詞以外の要素によって語彙化される場合、「-着」を用いない」と考えられるからである。

(14a)では、「藏」した結果が「在自己家里」と語彙化されており、(15b)では、「统治」の結果生じた状態の程度が「得很严」と語彙化されている。(16b)は、「起…来」が動作の開始とその継続を表すアスペクトを表示しているため、「-着」が排除されているのである。

第二に、刘他(1983)は、「一着」の「否定形式はめったにもちいられない」とし、用いられるのは、「そうでないことを区別してはっきり示すとか、“着”を含む問いに答えるといった場合」に限定している。したがって、(17b)のような否定の表現には、「一着」が用いられないのは明らかである。¹⁰⁾

(17a) わたしはまだ天に見放されていなかったのか？(p. 149)

(17b) 上帝还没有抛弃吗？

この他に、12例ある。

否定形式は、それ自身、状態を表しており、さらに結果の状態を示す「一着」を伴わないのである。

第三に、木村(1981)によれば、持続を表す「一着」は、名詞句を限定する「一的」を後ろに伴うことがない。

(18a) 出港前から、太平洋の真ん中で、大しけと戦っている自分の姿を想像するだけで怖くてたまりませんでした。(p. 36)

(18b) 还没有离港之前，仅仅想象一下自己在太平洋里与波涛搏斗的情景，就不寒而栗。

この他に、19例ある。

第四に、「知道(知っている)」、「生活(生きている)」、「有(持っている)」などのように、継続する状態を表す動詞や、「在(ある)」のように存在を表す動詞は、「一着」とともに用いられることがないことも知られている。

(19a) そして、これをふりはらうには、実際に行動を起こすほかないことを、わたしは知っている。(p. 143)

(19b) 我知道要驱走这种不安，只有进行实际行动，此外再没有别的办法。

(20a) すぐに、北西方向に開水路が行く手をはばんで横たわっていた。(p. 157)

(20b) 来到前面，西北方向有一条开水带挡住去路。

これまでに説明したものを除いて、継続の状態を表す動詞が用いられているものが、

(19b)を含めて43例、存在を表す動詞が用いられている例が、(20b)を含めて5例ある。この二者は、どうし自身が「状態」という性質を持っているものと考えられる。すなわち、金田一(1950)のいうところの「状態動詞」に当たるものと考えられる。日本語においては、「ある」、「いる」などに限定されているが、中国語は、多くの「状態動詞」を持つものと考えられる。

第五に、結果的な要素を内部構造に持つ二音節動詞がある。たとえば、「変成」、「換成」などや「説明」、「申明（釈明する）」などである。このような例が、12例見られる。

日本語の「－ている」の特性に由来するものとしては、反復を表す「－ている」と、(21a)のような例がある。反復を表す「－ている」の例は、11例ある。

(21a) なんにも知らないはずのうちの子ども、初めは、「変な名前だなあ。」と言っていた。(p. 78)

(21b) ……，开始一些不明其意的孩子们都说”这个名字太怪了”。

などである。(22a)は、「経験」を表している。

(22a) 幸夫は口では人並なことを言っていたが、明らかに自分の獲物の処理に当惑しているふうで、……。 (p. 111)

(22b) 虽然幸夫嘴上那么说，但很明显他已为如何处理自己的猎获物而为难了。

ここまでで説明できなかったものは、次のような例である。

(23a) しまのシャツを着ている男は、良平に、「やい、乗れ。」と言った。(p. 128)

(23b) ……，“喂，上车吧”，穿条格衬衫的小伙子对良平说。

(24a) そうして放課後の先生たちが白い運動服を着てそこでテニスをしていました。(p. 6)

(24b) ……，上完课的老师們穿着白色运动衣在那里打网球。

「穿」は、(25b)のように「－着」を伴う場合と、伴わない場合とがある。両者には、どのような差異があるのだろうか。

(25a) 通学の生徒たちも、多くは洋服などを着て、軽快な運動靴か何かをはいています。(p. 5)

(25b) 走读的學生們大都穿着制服和轻快的运动鞋，……。

(24b)の例については、「在那里」が「在－」と同じ文法機能を持つとも考えられるが、日本語本文の「そこで」と対応し、語彙的意味も見逃せない。両者とも、今後、さらなる考察が必要であろう。

3. 結論

日本語の「－ている」と中国語の「－着」は、その基本的性質、つまり、動詞に対する働きかけが非常に類似していると、筆者は考える。しかし、二つの言語の持つ統語的、意味的制約のために、表面的にその差異が著しいものとなっているのである。その差異は、

次のようなものである。

まず、日本語と中国語では動詞自身の持つ性質が異なり、どのような動詞が「ーている」あるいは「ー着」と結合するかが、異なっている。

また、中国語では、補語などが多用され、それが「ー着」を排除している。

この第二の点は、「ー着」が、動詞が表している動作（あるいは動作の一部）によって生じた何らかの「効果」が存在し、それがその動詞によってのみ表されることを示している。すなわち、「継続性」を持つ動詞は、動作の継続としてその「効果」が現れ、「結果の状態性」を持つ動詞は、動作の結果の状態としてその「効果」が現れるのである。””ここに「ー着」の持つ基本的特性があると考えられる。

以上、「ー着」は、中国語の動詞の性質を考察する上で、有用な要素であり、今後、より深い分析および考察が必要であろう。

注

1) 本稿の作成のあたり、広島大学文学部の吉川守先生、および、広島大学総合科学部の郭春貴先生、小川泰生先生のご助言をいただいた。この場を借りて、感謝の意を表すものである。

2) また、呂(1980)は、中国語の「着」の意味と用法として、次の五つを上げている。

① 動作が今進行していることを表す。動詞の後ろに用いる。動詞の前に副詞'正・在・正在'をつけられる。文末にふつう'吧'を置く。

② 状態の持続を表す。動詞・形容詞の後ろに用いる。動詞・形容詞の前に'正・在・正在'をつけられない。

③ 存在文に用いる。どのような状態・姿で存在しているかを表す。この'動詞+着'は動作が生みだした状態を表す。

④ 動詞1+着+動詞2 連動式を構成する。動詞1の多くは単音節の動作動詞。動詞1は同じ動詞をくり返したり、2つの動詞を重ねて用いることもある。動詞1と動詞2の意味関係は多様である。

⑤ 形容詞+着+数量詞

⑥ 動詞/形容詞+着+点

3) 平山(1959)は、動詞の分類はするが、意味特徴について言及していない。

4) 中国語訳の文(または文の一部あるいは文章)の中から、「ー着」を含む文(または文章)を見つけ出し、それに対応する日本文を抜き出し、両者を対照すること、および、中国語の文章とそれを日本語に訳した文章による対照も必要であると、筆者は考えているが、今回は、これだけにとどめておく。

- 5) 「-ている」の活用形および「-ているのだ」などを対象としている。ただし、「-ておる」の形式は、除いた。
- 6) 残りの一例も「進行」を用いたものである。
- 7) 「挑」には、「ほじくる」という意味の他に、「揚げて広げる」や「支える」等の意味を持つ。この例文では、「ほじくる」であると、筆者は、考えている。なお、郭春貫先生より、この訳文には問題があるとの指摘を受けた。
- 8) 「啃(かみつく)」が、「继续」という動詞とともに用いられていることに、注意を要する。
- 9) 本調査においても、「-着」が現れている例では、その他のアスペクト助詞や補語を伴っていない。
- 10) (a) 焼けかかっているものもあれば、まだ全然火を浴びていないものもあった。(p. 108)
- (b) ……，有的纸团还没有烧着。
- のように、否定形式で、用いられているものもある。この場合は、区別を意図したものであろうが、「焼けかかっているものもあれば、」は、訳されていない。
- 11) この点は、「動詞1+着+動詞2」の構造をなすこととも合致する。動詞1の持つ「効果」は、動詞2にまで及んでいるのである。

参考文献

- 刘月华、潘文娒、故 粹(1983):『实用现代汉语』(外语教学与研究出版社)
- _____/相原茂他訳(1988):『現代中国語文法総覧』(上)(くろしお出版)
- 吕叔湘編(1980):『现代汉语八百词』(商务印书馆)
- ____編/牛島徳次、菱沼透監訳(1983):『現代中国語用法辞典』(現代出版)
- 木村英樹(1981):「「付着」の”着/zhe/”と「消失」の”了/le/”」(『中国語』No. 258)
- _____(1982):「(テンス・アスペクト)中国語」(寺村秀夫他編(1982)所収)
- 金田一春彦(1950):「国語動詞の一分類」(『言語研究』No. 15、金田一春彦編(1976)所収)
- ____編(1976):『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房)
- 寺村秀夫他編(1982):『講座日本語11 外国語との対照Ⅱ』(明治書院)
- 藤堂明保、相原茂(1985):『新訂中国語概論』(大修館書店)
- 山田小枝(1984):『アスペクト論』(三修社)

吉川武時（１９７３）：「現代日本語動詞のアスペクトの研究」（『Linguistic Communications』No. 9、金田一春彦編（１９７６）所収）